

## 【雪形を題材とした授業実践例】

雪形を通して、農耕で大切に伝えられてきた伝統・文化を学ぶ

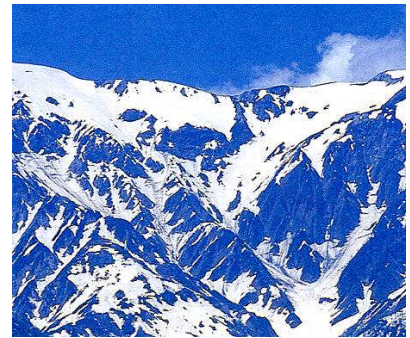
### 雪形を教材化するにあたって

雪形という言葉は初めて聞きますが、どのようなものでしょうか？



「雪形」とは、雪がとける春に山に現れる残雪模様の総称です。昔から農業に携わる人たちが、この「雪形」が現れる時期や見え具合などから、毎年の種まきや耕作を始める時期の目安や農事暦として大切に伝承し、実際に最近まで利用されてきたようです。

(白馬の「代かき馬」)



農事暦と雪形の関係を、もう少し詳しく教えてください。



地域ごとに、おおよそこのころにこのような農作業をする（例えば4月の中頃に畑に〇〇の種を蒔くなど）と決まっています。「雪形」から雪解けの様子と暦とを重ねて、年による寒暖の違いを予想し、その年の農作業に適した時期を探ることができたようです。気象状況をみとる方法を、長い経験から学んでいたのでしょうか。

雪形の利用をしていた人は、農業にかかわる人なのですね！



そうですね。まだ気象に関する研究や、天気予報の技術が進んでいなかった当時の人々にとって雪形は、自然の変化を読み取り、農作業の適期を知るための生活の知恵だったのでしょう。また、山形県の月山に伝わる雪形は「蚕の世話の時期」、新潟県の守門山の雪形は「鯛（いわし）がとれる時期」など、自然に大きく左右されることと雪形には、深いつながりがあるようです。

雪形は、全国でどのくらいの数があるのでしょうか？



雪形は、全国に300以上あるといわれています。雪形は、昭和56年に「山の紋章雪形」を刊行した田淵行男氏によって知られるようになりました。それによると、もっとも多い県が新潟県で85、次いで長野県の57、第3位以下は、青森県、山形県、福島県、岩手県、秋田県と続きます。雪形の多く伝わる地域は米の生産量も多い地域です。それは、雪は水となり、米づくりと大きくかかわってくるからではないかと考えられています。

雪形は日本のどこでも見られるのですか？



多くは北海道から中部地方にかけて見られるようですが、兵庫県や愛媛県でも見れるようです。最近は、観光などの目的で新しく命名された雪形もあります。昔から農事暦などとして伝承されてきた伝統・文化として扱うには、よく調べてからの方がいいでしょう。



有名な雪形には、どのようなものがありますか？



長野県の白馬、福島県の吾妻小富士、石川県の白山で見られるものがよく知られています。白馬という地名は、雪形として伝えられた「代かき馬」の「代馬（しろうま）」が由来といわれています。また、爺ヶ岳や蝶ヶ岳、駒ヶ岳のように、雪形の名前がそのまま山の名につながっているものもあります。富士山にもあり、江戸時代の葛飾北斎が描いた「富嶽百景」の中に農男の雪形が描かれています。



雪形の名前（名称）には、どのようなものがありますか？



種まきじいさんに代表される人形（ひとがた）、駒や馬などの動物、ニワトリなどの鳥、鍬や鎌といった農耕具など、やはり農業に関係したものが多ようです。

**飯縄山「種まきじいさん」は「ネガ型」→**

雪形には、残雪の白が形を作るポジ型と、雪が解けた岩肌などの黒が形を作るネガ型の2種類があります。時期でいえば、3月～5月にはネガ型が多く、5月～7月になるとポジ型の数が増えます。



私の住む地域では、山に「春になるとうさぎの形が見える」という話を聞いたことがあるのですが、これも雪形でしょうか？



「雪形」は比較的新しい言葉で、昭和13年、民俗研究家の岩科小一郎氏が山岳雑誌「山小屋」に寄稿した「残雪絵考」の中で初めて使われました。それ以前は、「雪残絵」などと呼ばれていたようです。毎年同じ形を見ることができると、昔から名付けられているものは雪形かもしれません。詳しく調べてみると、その地方に農事暦などとして伝承されてきたお話など出会い、教材化できるかもしれませんね。



現在も雪形を農業などに利用している人はいるのですか？



現在は昔と比べて天気予報など気象情報の精度が上がり、機械化や作物の品種改良なども進んだことから、雪形を農事暦として利用している人は減り、地域によっては、農家での雪形の利用価値も薄くなり、知らない農家も増えています。しかし、気象状況は地域によって微妙に異なるので、今でも最新の天気予報と組み合わせて、雪形を微調整の目安として利用している農家の人もいます。また、「あの山の雪が〇〇が見えたらワラビが採れる」というように山菜採りの目安にする場合もあるようです。



そうだと、雪形は現在はあまり利用されていないのですね。



そんなことはありません。

先人が残した地域の伝統・文化としての掘り起こしや、国土交通省などによる研究も進められています。

たとえば、

- ・雪形ウォッチングのような観光や町おこしのイベントに
- ・雪崩などの防災科学としての研究に
- ・伝えられてきた生活文化として自然や四季の変化の楽しみに



社会科で扱うとすると、どの単元で雪形と関連づけて学習ができるのでしょうか？



3・4年の社会科では、「のこしたいもの」「地域の伝統文化」として、5年では「食料生産」で、扱うことができると思います。農業学習では科学技術の進歩や機械化、効率化など農業の工夫を学びますが、その中で「雪形」を取りあげ、農家の経験則から生み出された伝承が伝わってきた理由を考えることは、先人の知恵について考えることができるよい機会になりますよ。



雪形を 伝統・文化を扱う教材として利用できるか心配ですが…



むずかしく考えるより、雪形はまず画像として見せ、何に見えるか子どもたちに想像させてみましょう。きっと、子どもたちのは興味や関心を引くことができると思います。

次に雪形の条件、例えば毎年同じ場所で同じ形が見えることや、昔から伝えられてきたことなどに注目させてみましょう。どのような人がどのように利用してきたか考えることで、子どもたちは先人の知恵に気づくはずですよ。また、地域によっては昔話として由来が伝えられている場所もあります。こんなことから雪形を扱ってもよいと思います。



雪形は、やはり春に扱うべき教材ですか？



もちろん、実際に見える時期に扱えば、雪解け水の水温や気温などの変化と関連させて、農事暦での利用について学ぶことができます。

しかし、5年の食料生産（農業）の学習後、現在の農業のあり方と比較・関連させながら考えると、先人の知恵などに気づかせることができる教材となるので、時期を春に限定して扱わなくてもいいと思います。



雪形のことをもっとくわしく知るには、どうしたらいいですか？



いくつか雪形に関連した本が出版されています。

中には、絶版のものもあるので、図書館などで探してみるとよいでしょう。また、インターネットなどで検索しても雪形に関するホームページは見つかります。

文献には、このようなものがあります。(敬称略)

- ・田淵行男：「山の紋章 雪形」学習研究社 1981年
- ・近田（こんだ）信敬：新版信州雪形ウォッチング 信濃毎日新聞社  
2007年
- ・岩科小一郎：『山の民俗』岩崎美術社 1968年
- ・田淵行男：『山の手帖 田淵行男写真文集』朝日新聞社 1987年
- ・斉藤義信：『図説 雪形』高志書院 1998年



\*参考・引用文献

- 新版信州雪形ウォッチング 近田信敬（こんだのぶたか）著 信濃毎日新聞社
- 「山の紋章 雪形」田淵行男著 学習研究社



## 【副読本】

### 「雪形と農業のつながり」

この写真をよく見ると、何か見えてこないかな



よく見ると、人のような形にも見えるし、漢字の「大」のようにも見えます。これはどこの山ですか。



この山は飯縄山よ。雪があるときには、こんな風に見えるのよ。これを「雪形」というのよ。

これって飯縄山なの。飯縄山なら、登山で登ったけど、こんな模様は見えなかったなあ

雪形っていうんだね。雪が降ったら、いろいろな山にできそうだな。ぼくも何か形を見ついたら、いろいろな名前をつけてみようかな。



ちょっとまってね。いくら山に見える形でも、雪形と呼ばれるものは、次のようなものなんだ。

- ①雪解けの季節に見えるものである
- ②毎年、ほぼ同じ形が現れる
- ③それぞれ名前がつけられている

雪形は、昔からずっと大切に伝承されて、利用されてきたんだよ。



雪形は、昔からずっと大切に伝承されて、利用されてきたというのはびっくりです。でも、誰が、どんなことに雪形を利用してきたんだろう。

いい疑問ね。では、誰が、どんなことに雪形を利用してきたのか、学んでいきましょう。

## 長野市若穂牛島 倉島さんの話



これは飯縄山に見える「種まき猿」だね。これが見えてくると、見え方で農作業を始める時期の目安にしたんだ。あとね、これの左側には八十八夜のころ（5月初旬）「雪ボッチ」と呼ばれる雪形が通常7こ現れるんだが、数が多く見えたら種まきを遅く、少なかったら早くするんだよ。

## 長野市浅川 吉野さんの話

うちは飯縄山は近いので見えないが、菅平の根子岳に漢字の「十一」が縦に見えたそう。前までは、この見え方で農作業を始める時期を考えたそうだよ。



わかった。雪形って、農業をしている人たちが、作業を始めたり、種まきの時期を知るために利用してきたんだね。昔の人って、すごく知恵があったんだなあ。



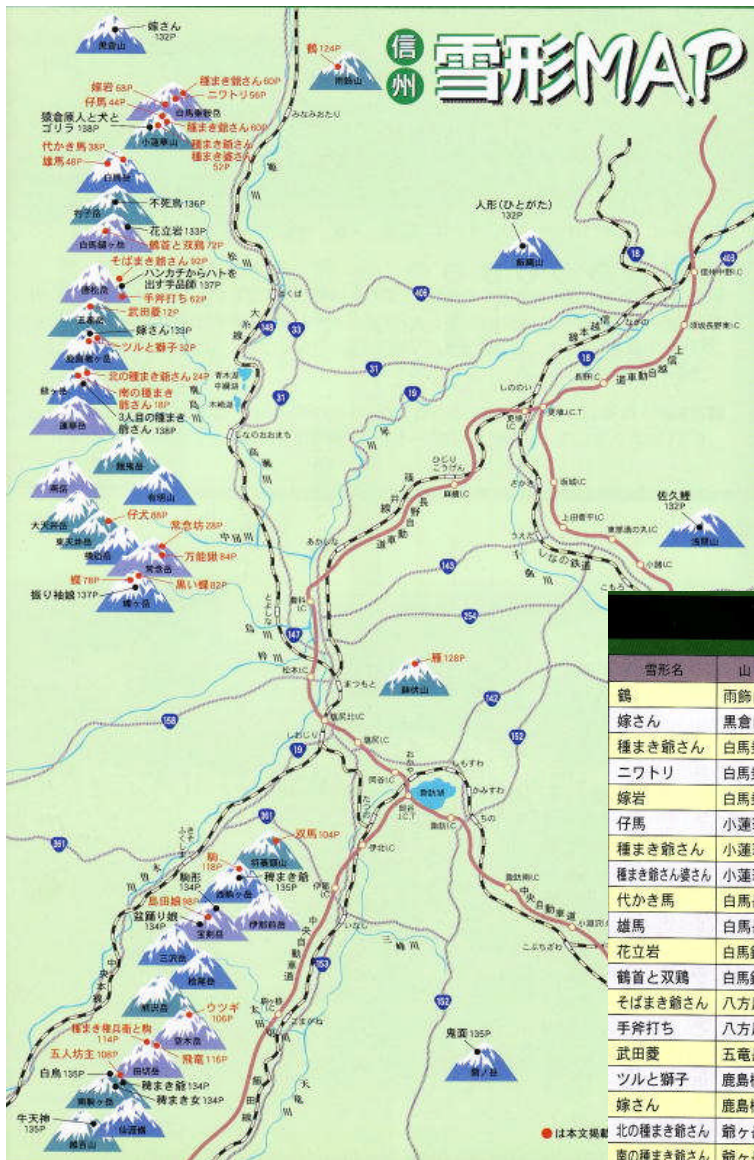
まだ天気予報の技術が進んでいなかったときから、農業をしていた人たちは、山にできる雪形の見え方やとけ具合を見て、田植え、種まきといった農作業の目安にしていたのね。どの時期にどんな作業をする暦がおおよそ決まっても、年によって寒暖の違いがあるわね。だから、雪形から暦の微修正をして、より農作業に適した時期を探ることができることを、長い経験から学んできたのね。

雪形は昔の人の知恵…そう思うと、もっとじっくりと見たくなるわ。ところで雪形って、長野市の周りで伝承されてきたことなのかな。他の地域とか、全国には雪形ってないのかな。



いい疑問ね。では、長野県には他にどのような雪形があるか、全国にも雪形があるのか調べてみましょう。





【このページの資料】

「新版 信州雪形ウォッチング」より引用



- ・雪形が伝わる場所を見ると、アルプスや高い山が多いわ。
- ・お米がたくさん作られている中信や南信地方と、雪形が伝えられているところとが重なっているようにも見えるわ。

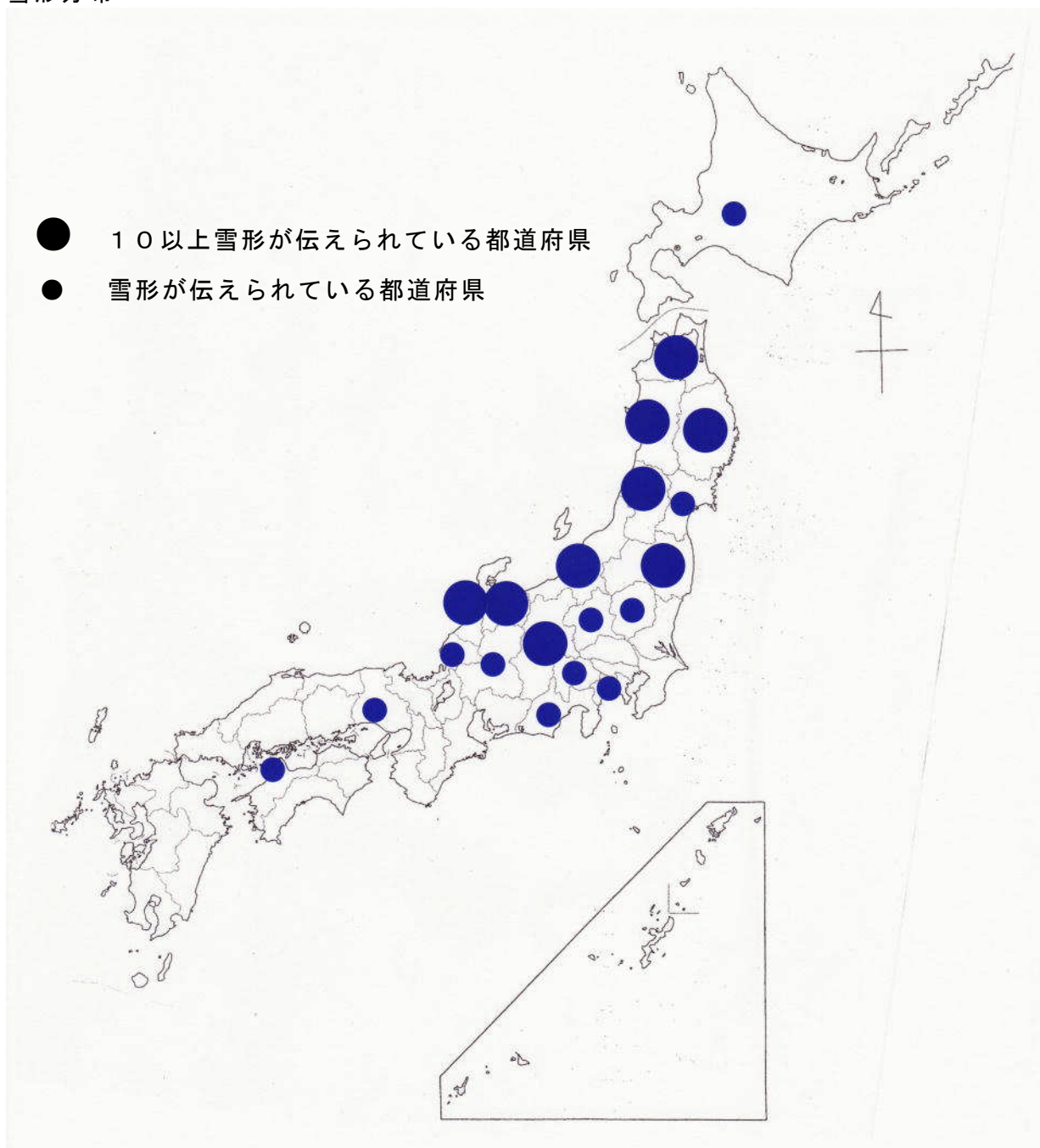
雪形リスト

雪形名	山名	見える場所	ネガポジ	コメント	時期	季別
鶴	雨鈴山	小谷村来馬上部	☐	首が切れたら豆をまく	5月上旬～5月中旬	124
嫁さん	黒倉山	小谷村大綱	☐	遅い時期にようやく現れる雪形	7月中旬	132
種まき爺さん	白馬乗鞍岳	白馬村とその周辺	■	県内最北の爺さん	5月上旬～5月下旬	60
ニワトリ	白馬乗鞍岳	白馬村～大町市北部	☐	形の大きな尾長鶏	4月下旬～5月下旬	56
嫁岩	白馬乗鞍岳	白馬村～小谷村	■	花嫁らが3人並ぶ	5月中旬～6月上旬	68
仔馬	小運華山	白馬村とその周辺	■	わら細工のような整った馬形	4月下旬～5月中旬	44
種まき爺さん	小運華山	白馬村とその周辺	■	笠をかぶった爺さん	5月上旬～5月下旬	60
種まき爺さん婆さん	小運華山	白馬村とその周辺	■	荷物を背負う爺さんと小柄な婆さん	4月下旬～5月中旬	52
代かき馬	白馬岳	白馬村とその周辺	■	白馬の名前の由来となった馬	4月下旬～5月下旬	38
雄馬	白馬岳	白馬村とその周辺	■	白馬岳山頂付近に現れる	4月下旬～5月下旬	48
花立岩	白馬鍾ヶ岳	白馬村北部	■	花びんをふせた形の雪形	5月上旬～5月中旬	138
鶴首と双鶴	白馬鍾ヶ岳	白馬村とその周辺	■	鶴の首とつがいの鶴	5月中旬～6月中旬	72
そばまき爺さん	八方尾根	白馬村とその周辺	☐	4人家族が並んだ雪形	7月中旬～7月下旬	92
手斧打ち	八方尾根	白馬村深空周辺	■	わずか一週間しか見られない雪形	5月上旬	62
武田菱	五竜岳	白馬村	■	四つ菱の武田家紋所	3月下旬～5月中旬	12
ツルと獅子	鹿島槍ヶ岳	大町市～安曇野市	■	向かい合うツルと獅子	4月下旬～5月下旬	32
嫁さん	鹿島槍ヶ岳	大町市～安曇野市	■	ツルと獅子の間に現れる	4月中旬～5月下旬	138
北の種まき爺さん	鐘ヶ岳	大町市	■	最後に鋳をかつぐ	4月下旬～6月上旬	24
南の種まき爺さん	鐘ヶ岳	大町市～安曇野市	■	遠くからも見える大柄爺さん	4月上旬～5月中旬	18
仔犬	東天井岳	池田町、明科の一部	☐	一部の場所からしか見えない辺の雪形	6月上旬～6月下旬	88
常念坊	常念岳	安曇野市(穂高～豊科)	☐	袈裟を着て徳利を持つ僧	4月上旬～5月上旬	28
万能鋳	常念岳	安曇野市(穂高～豊科)	☐	常念坊の後に現れる鋳	5月中旬～6月中旬	84
黒い蝶	蝶ヶ岳	安曇野市(穂高～豊科)	■	白い蝶より一足早く出現	4月下旬～5月下旬	82
蝶	蝶ヶ岳	安曇野市(穂高～豊科)	☐	形の美しいポジ型の蝶	5月中旬～6月中旬	78
雁	鉢伏山	安曇野市豊科～松本市	☐	場所や時期によって名が変わる	3月下旬～4月中旬	128
双馬	将基頭山	駒ヶ根市東伊那	■	2頭の並んで走る馬	5月上旬～5月下旬	104
駒	西駒ヶ岳	伊那市街～伊那市高遠	■	駒ヶ岳の名前の由来になった雪形	5月上旬～6月上旬	118
種まき爺	西駒ヶ岳	高遠町とその周辺	■	親子駒の近くに出る小さな雪形	5月上旬～5月下旬	136
駒形	宝剣岳	駒ヶ根市とその周辺	■	左を向く馬の顔と首	4月中旬～5月中旬	134
島田娘	千畳敷	駒ヶ根市とその周辺	■	島田婆のよく知られる雪形	4月中旬～5月中旬	96
盆踊り娘	千畳敷	駒ヶ根市とその周辺	■	種まき爺さんとも呼ばれる	4月上旬～5月上旬	134
ウツギ	空木岳	飯島町とその周辺	☐	初夏に咲く白い卵の花	5月中旬～5月下旬	106
飛竜	田切岳	駒ヶ根市とその周辺	☐	種まき権兵衛と駒の後に現れる	6月上旬～6月下旬	116
種まき権兵衛と駒	田切岳	駒ヶ根市とその周辺	■	ザルを持つ権兵衛と馬	5月中旬～6月上旬	114
五人坊主	南駒ヶ岳	飯島町本郷～七久保	■	五人の小坊主が一列に並ぶ	4月下旬～5月下旬	108
白鳥	南駒ヶ岳	駒ヶ根市とその周辺	☐	左を向いて飛ぶ美しい白鳥	6月上旬～6月中旬	136
種まき爺	南駒ヶ岳	駒ヶ根市	☐	見返り美人とも言われる	5月上旬～5月下旬	134
種まき女	南駒ヶ岳	飯島町	■	種まき爺を飯島町側から見る	5月上旬～5月下旬	134
牛天神	越百山	飯島町	■	越百山に現れる大きな雪形	5月上旬～5月下旬	136
人形	飯縄山	長野市とその周辺	■	種まき爺さんとも呼ばれる	4月下旬～5月上旬	130
佐久鯉	浅間山	佐久市とその周辺	☐	山に登るような鯉の姿	4月下旬～5月上旬	132
鬼面	間ノ岳	宮田村	☐	初めは優しいがやがて厳しい顔に	5月上旬～5月下旬	136



- ・農業に関係している人やもの、動物などの名が雪形につけられているね。
- ・爺さんが見えるから、山の名前も爺ヶ岳っていうのかも。地名の由来にもなっているぐらい大切なものなんだね。

## 全国の雪形分布



全国でも、約300近くの雪形が伝えられているそうです。インターネットや本などでもいろいろと調べてみることができそうですね。地図帳などで、農業が生産が盛んな県と見比べてみると、何か気づきませんか。

参考資料「地名コレクション」ホームページ

<http://uub.jp/nam/yukigata.html>



## 何に見えるかな

- 1 写真の中から、何かの形が見えるかな。見えた形を写真の上になぞってみよう。  
□には、どんなものに見えたか書いてみよう。



見えた形

人や動物、字などに見えるという意見が予想されます。この学習に意欲を持つよう、想像を広げ、自由に意見の交流をさせましょう。

このように、春の雪どけのころになると山々に見えてくる形を、  
雪形と言います。

雪形は、昔から伝えられてきたもので、次のようなことが言えます。

- ①春になるとだんだんと現れてきます。
- ②毎年、ほぼ同じ形を見ることができます。
- ③動物や人のしぐさなどの名前がつけられています。

- 2 雪形は昔から大切に伝えられ、利用されてきました。どんな人たちに伝えられ、どのように利用されてきたのでしょうか。

予想

- ・上に挙げた「雪形の条件」を踏まえて予想できるようにしましょう。
- ・「こう考えた」という根拠や理由を、児童が発言する際に大切に扱っておくことで、このあとの学習が深まります

雪形は、どんな人たちに伝えられ、  
どのように利用されてきたかな。

組 名前



映像を見て気づいたこと、わかったことをまとめよう。

映像から聞き取ったことをまとめながら、雪形を農事暦の目安とする「よさ」や、昔の人たちの「知恵」に目を向けることができるようにしましょう。

今日の学習をまとめよう。

雪形は、

雪形は、今の農業にも  
生かしていくことができるだろうか

組 名前

自分の考えとその理由を書こう

「利用できる」「できない」どちらかについて自分の考えをまとめさせる。決して、どちらが正しいということではなく、これまで考えたり学んだりしたことを総合的に考えさせたい。

話し合いメモ（友だちの意見など）

考えのまとめ

# 社会科 ワークシート

\_\_\_\_\_組 名前\_\_\_\_\_

○雪形について正しい文には ( ) に○を書きましょう。

- ①雪形は、全国どこの山でも見ることができる。( )
- ②雪形は、春になると決まった場所でほぼ毎年同じ形を見ることができる。( )
- ③雪形は、動物や人の様子やしぐさ等の名前がつけられていることが多い。( )
- ④雪形は、最近発見されてきたものである。( )

○これは、飯縄山で見ることができる雪形です。この雪形の名称は  
何というでしょう



○雪形は、どんな人に伝えられ、どのように利用されてきたのかな

○この学習をした感想を書きましょう。



# 学習指導案

## 小学校5学年 学習指導案(単元展開例)

### 1 単元名「食料生産とわたしたちの暮らし」

#### 小単元「雪形と農業のつながり」

### 2 単元展開例

#### (1) 単元の概略

5学年の社会科「食料生産」では、農業では科学技術の進歩によって機械化や効率化などが進んできたことを学ぶが、今回「雪形」を社会科の教材として取りあげることで、農家の経験則から生み出されたすばらしい伝承があることを学びたい。そして、科学技術が進んだ現代でも、雪形が伝えられている理由を考えることを通して、先人の知恵について気づかせ、自分たちもそういう文化を伝えていこうとする態度を育てることをねらいとしたい。

#### (2) 伝統・文化等に関する教材科の視点(つけるべき力)

- ①「雪形」の由来や意味をとらえ、農業などの分野で昔から伝承されてきたことがわかる。
- ②より農業生産を安定させるために雪形を農業の暦や作業時期を知る目安とした先人の知恵に気づくことができる。
- ③身近な地域や全国に残る伝統・文化的な行事やその意味について興味関心を持ち、自ら調べていこうとする意欲を持つ。

#### (3) 小単元展開の大要(全4時)

第1時：写真を見ながら雪形の存在を知り、長野県には雪形がたくさん伝えられていることを知る。

第2時：雪形を伝承してきた人、利用している人について考え、先人の知恵を知る。

第3時：長野県の雪形分布(資料)を見ながら、雪形が多く地域で農業暦などに利用されていたことを知る。

第4時：雪形と現在の農業について、自分の考えをまとめる。

#### (5) 単元展開概要

時	主な発問・指示 ○展開	指導のポイント
1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">この写真(飯縄山の雪形や白馬の代かき馬など)は、何の形に見えるでしょう。</div> <p>①予想をし、発表しあう。 ②雪形と呼ばれ伝わっているものの定義を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・画像をプリントで配布するとともに黒板にはプロジェクタ等で提示し、見えた形を自由に考える場としたい。見えた形については、全体に発表しあえるようにする。</li><li>・雪形について、以下の点を子どもたちに説明する。<ol style="list-style-type: none"><li>①雪解けの季節に見えるものである</li><li>②毎年、ほぼ同じ形が現れる</li><li>③名前がつけられている</li></ol></li></ul>

	<p>③伝えられてきたものであることから、誰がどうして伝えてきたのか課題とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補足として、雪形は昔の人が生み出し、現在に伝えられていることについて説明をする。</li> </ul>
2	<p>雪形を利用してきた人って、どんな人たちだろう。</p> <p>①予想をし、意見の交流をする ②コンテンツを見て、確かめたりわかったことをまとめたりする ③発表する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雪形を利用してきた、または利用している人の存在を伝え、誰がどのように利用してきたかを考えるようにする。</li> <li>・コンテンツ（雪形についてのインタビュー映像）を見て、誰がどのように雪形を利用をしているか確かめる。その際は、前時説明した雪形とはどのようなものを指すかをもう一度確認したい。</li> </ul>
3	<p>長野県や全国に伝わる雪形をいろいろ調べてみよう</p> <p>①調べたいことや疑問を出し合う ②長野県や全国に伝えられてきた雪形を資料から調べる。 ③わかったことを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの疑問として 「長野県にはいくつぐらい雪形が伝わっているんだろう」 「全国にも雪形は伝わっているのかな」 などが予想される。 統計資料や地図などを提示することで確認させる方法もあるが、子どもたち自らが、本やインターネットなどで調べる活動につなげることも考えたい。</li> <li>・雪形につけられている農業の様子や人のしぐさ、動物などの名前に込められた願いなども考えさせたい。</li> </ul>
4	<p>雪形は、今の農業にも生かしていくことができるだろうか</p> <p>①自分の考えを持つ ②考えを交流しあう ③自分の考えをまとめる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感情で「生かせる」「生かせない」とならないように、前時調べた資料やコンテンツなど、自分が考えた根拠を示しながら意見の交流を行いたい。</li> <li>・白馬では、現在も天気予報と合わせて米づくりに雪形を生かしている人がいることなどを紹介できるように準備しておく。</li> </ul>

# 実践事例

## 単元名 『農業のこれから』

### 1 ねらい

日本の食料生産のあり方について学んだ子どもたちが、春の雪解け期に見られる「雪形」を現在でも米作りに利用している白馬村の米作り農家の姿を知ることを通して、科学技術が進んだ現在でも、自然と深いつながりを持つ米づくりに、その地域で長年にわたって培われてきた農家の経験から生み出された伝承が大切に利用されていることがわかるとともに、自分たちの身のまわりの伝承にも興味関心を持つことができる。

### 2 本時の位置

全1時間扱いの第1時

### 3 本時の評価規準

- 各地で伝承されている雪形の利用のされ方について、意欲的に追究しようとする。  
【関心・意欲・態度】
- 昔から伝承されてきた雪形「代かき馬」が、現在も米作りの暦に利用されており、農業と自然に深いつながりがあることがわかる。  
【知識・理解】

### 4 本時における留意点

- グループで話し合える形態で進め、より多くの意見を出し合えるようにする。

### 5 準備品

**教師** プロジェクタ・DVD（NHK小さな旅 2008年5月4日（日）放送・「雪形がおしえてくれた ～長野県 北アルプス山ろく～」） 雪形を印刷したカード 模造紙

**児童** ワークシート

### 6 本時の展開

段階	学習内容（○）と予想される児童の反応（・）	指導・支援	評価	時間
導入	○雪形の写真を見て、何に見えるかを考える。 ・この形は、人に見えるよ。寝ている人みたい。 ・漢字の「大」に見えるよ。 ・でも、こんな形、どこに行ったら見れるのかな？  [確認] 雪形…昔から伝えられているもの ①春になるとだんだんと現れる ②毎年、ほぼ同じ形を見ることができる ③動物や人のしぐさで名前が付けられている	・グループになり、見える形を自由に出し合う時間を確保し、雪形に関心を持つことができるようにする。 ・飯縄山の「種まきじいさん」の雪形を提示し、春には、身近な山で雪形を見ることが理解できるようにする。 ・実際に見たことのある子どもがいたら、どこで見たかを確認する。		10

- 白馬の「代かき馬」の雪形を提示する。
- ・今度は動物の形のような雪形だ。

実は、春になると見える雪形を仕事に利用している人がいるんだ。

- ・どんな仕事の人だろう。
- ・どんなことに雪形を使っているんだろう。

- ・「代かき馬」という名前はここでは出さず、長野からは見れないがオリンピックでも有名になった白馬方面で見える雪形であることを知らせる。時間があれば地図で場所を確認する。
- ・知りたくなったことを子どもに問いかけ、学習問題としていく。

雪形を仕事に利用している人って、どんな人かな

- 予想をし、発表する。
- ・雪が溶けて山に出てくるから、春の仕事だな。
- ・それなら、カレンダーみたいだから、観光とか、景色を見るのに使うとか。
- ・春だから、農作業で、「雪形が出たら田植え」とか言い伝えがあるかもしれない。

- ・各自の根拠を示しながらグループ内で、各自の予想を話し合うように指導する。

どんな仕事の人が、どのように雪形を利用しているか確かめよう

- DVDを見て、雪形を誰がどのように利用しているか確かめ、気づいたことを学習カードに整理し、発表し合う。
- ・農家の〇〇さんが、お米作りの初蒔きの時期を知るために利用しているんだ。
- ・天気予報を使っていたのに、雪形を利用して天気を知るなんて。天気予報を見ていて失敗して、雪形で成功するなんて不思議。
- ・山の見え方で天気を予想するとか、昔から自然の様子を観察して生かすなん、何か昔から伝わっていることってすごいなあ。
- ・〇〇さんのおじいちゃんって、雪形のことを知っていてすごいなあ。
- 雪形は、何のために伝えられてきたかを考える。
- ・農業をする人が、代かきとか、種まきとかの時期を知るため。
- ・雪形は、大切に伝えられてきた知恵だね。

- ・どうして天気予報（最新の科学技術）から雪形（伝承）を使って初まきのタイミングを図るようになったかをまとめる学習カードを準備する。そして、農業が自然と切り離せないということに気づけるようにする。
- ・どうして雪形を利用するようになったかを問いかけ、〇〇さんの米作りは、最先端の気象データを利用した米作りをしていたのに初まきを失敗してしまったことを確認する。

- 自分たちの身のまわりに伝承されていることや、聞いたことがあることなどを考える。
- ・聞いたことがないから、おじいちゃんに聞いてみようかな。

- ・科学技術が進んでも自然には地域差があり、長年にわたってその地域の人々が築き上げてきた経験（伝承）は農業に今も生きていることに気づかせるために、飯縄山の雪形も若穂地区では「種まきじいさん」と呼ばれ、この雪形が見える地域の農業に今も生かされていることを紹介する。

評価 【知識・理解】

展  
開

展  
開

5

20



ま と め	<p>○学習カードにわかったことと感想を記入し、発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・天気予報を使っている、初まきに失敗することもあるなんてびっくりした。今までは機械化とか、農業も工夫されてきたけれど、雪形のような伝統の方が優れていることもある。</li> <li>・今は、天気予報とかあって便利だけど、昔から伝えられて知恵を今も生かしてお米作りをしている人がいてびっくりした。</li> <li>・雪形とかのように昔から大切に伝えられてきたものを利用していることを知りたくなった。</li> <li>・来年の春は雪形を自分の目で見たくなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめを発表する時間を設け、それぞれの感想や気づきを聞き合えるようにする。</li> </ul> <p>評価 【関心・意欲・態度】</p>	10
-------------	---	---	----

## 7:学習カードから

予想 新聞をつくる人が写真をとって、新聞にのせる。  
写真家の人が写真をとって、写真集をつくる。

映像を見て気づいたこと、わかったことをまとめよう。

- ・「代かき馬」という、それが<sup>馬</sup>見られると、田の代かきの時期。
- ・白馬村の米つくりをしている人が利用している。
- ・雪形が遠くに見えるときは、空気がかんそうしているとき。
- ・雪どけ水を農家の人は利用している。 <sup>水</sup>噴水

今日の学習をまとめよう。

- ・私は雪形が「天気や農業に利用されている」というのを初めて知った。
- ・名前(雪形)が「田」に関係していることに気づいた。
- ・雪形は、たての模様だと思っていた。
- ・今度は、ちがう雪形について勉強したい。

予想 写真家が絵はかきなどを作るため、(山や)  
写真をとるかに戻りつけて、来た人に問題をたずね。(木)

映像を見て気づいたこと、わかったことをまとめよう。

この馬は、代かき馬とゆう名前が、農家の人が利用している。利用①代かき馬がは、きり見ると代かきの時期。利用②代かき馬が遠く見ると、晴れて、近いと天気が悪くなっている。この雪形は農家の人が代かきの時期や、種(もみまきの日(雨が降るともみかダメになるから))に最的な日を知るのに利用している。

今日の学習をまとめよう。

考えた時、写真家とかしか思いつかなかったけど、雪形を、農家の人が、時期、天気を知るのに使っていたなんて全く思いつかなかった。これを使っていた昔の人はすごい。他にもあったら、見てみたい。

## 何に見えるかな

- 1 写真の中から、何かの形が見えるかな。見えた形を写真の上になぞってみよう。  
□には、どんなものに見えたか書いてみよう。



見えた形

このように、春の雪どけのころになると山々に見えてくる形を、  
雪形と言います。

雪形は、昔から伝えられてきたもので、次のようなことが言えます。

- ①春になるとだんだんと現れてきます。
- ②毎年、ほぼ同じ形を見ることが出来ます。
- ③動物や人のしぐさなどの名前がつけられています。

- 2 雪形は昔から大切に伝えられ、利用されてきました。どんな人たちに伝えられ、どのように利用されてきたのでしょうか。

予想

雪形は、どんな人たちに伝えられ、  
どのように利用されてきたかな。

組 名前



映像を見て気づいたこと、わかったことをまとめよう。

今日の学習をまとめよう。

雪形は、

雪形は、今の農業にも  
生かしていくことができるだろうか

\_\_\_\_組 名前\_\_\_\_\_

自分の考えとその理由を書こう

話し合いメモ（友達の意見など）

考えのまとめ



# 社会科 ワークシート

\_\_\_\_\_組 名前\_\_\_\_\_

○雪形について正しい文には ( ) に○を書きましょう。

- ①雪形は、全国どこの山でも見ることができる。( )
- ②雪形は、春になると決まった場所でほぼ毎年同じ形を見ることができる。( )
- ③雪形は、動物や人の様子やしぐさ等の名前がつけられていることが多い。( )
- ④雪形は、最近発見されてきたものである。( )

○これは、飯縄山で見ることができる雪形です。この雪形の名称は  
何というでしょう



○雪形は、どんな人に伝えられ、どのように利用されてきたのかな

○この学習をした感想を書きましょう。